

ニセコ（ワイスホルン）

山行日：2008/2/9～12

メンバー：田尻(L)、他 MSC どんぐり 4 名

記：田尻

ニセコにはもう何度も訪れている。ただ、今回はワイスホルンの山頂滑降を行うことが出来た。ワイスホルンの滑降だけはこれまで報告した事がなかったので、他の報告は最小限にとどめ、ワイスホルンの部分のみ詳細に記してみる。



2/9 <晴ときどき曇> 16:00 五色温泉発 → 16:50 五色温泉の裏 960m → 17:20 五色温泉

8:15 神戸空港発。11:00 前に千歳空港に到着する。五色温泉到着は 15:30 になった。あまり遠出は出来ないの、五色温泉の裏の 100m ほどの斜面で足慣らしをすることにした。斜面が南面しているためやや表面がモナカ気味ではあったが、そこそこの雪を滑ることができた。

2/10 <晴> 8:20 五色温泉発 → 9:30 アンヌプリスキー場 TOP → 10:10 アンヌプリ山頂
→ 11:30 アンヌプリスキー場 Gondola 麓駅 → 12:00 アンヌプリスキー場 TOP
→ 12:40 アンヌプリ山頂 → 12:50-13:15 パノラマラインの上
→ 14:40 イワオヌプリ山頂 → 15:30 五色温泉

朝から無風快晴。過去に 7,8 回はニセコに来ている田尻も初めて経験する奇跡的な晴天だ。五色温泉の前からシールで歩き始める。歩くこと 20 分ほどで見返坂の上まで出てシールを外す。テレビ塔から滑り、トレースをたどってニセコアンヌプリスキー場の Gondola 乗り場まで滑る。

山頂ゲートまでは Gondola とリフト 1 本を乗り継ぐ。一人一回 1,400 円也。山頂ゲートからはスキーを

担ぎ、つぼ足で登る。約 40 分の歩きで着いた山頂は、稀な好天にゲレンデスキーヤーも惹かれて上がってきたらしく、人だかりとなっていた。

山頂からは北壁の滑降。今回も膝くらいのパウダーが楽しめた。樹林も少ないため自由自在にシュプールが描ける。標高差 600m を一気に滑り降り、再びゴンドラで山頂に上がった。

二度目の北壁滑降は、少々傾斜が強めのコースを取った。イワオヌプリとのコルまで滑った。

二本北壁を滑ったが、まだ 13:00 と時間も早く、天気も崩れる気配は全くない。もう一本滑りを楽しみたいのでイワオヌプリに登ることにした。コルからイワオヌプリ山頂までは 300m 強の登り。既に登りトレースもバッチリ付いており順調に高度を稼ぐ。1 時間半で山頂に着いた。

山頂からの滑降は、南斜面を避け雪質が悪くなり難い東斜面に取ることにした。それでもちょっと表面が硬くなり始めていたが、悪くはないパウダー。ここは過去に滑った事のないルートだ。滑り始めは 40°くらいの傾斜があり中々に良いコースだった。15:30 に五色温泉に帰って行動を終了した。



2/11 <雪> 9:20 チセスキー場 → 10:30 チセヌプリ山頂 → 10:50 チセとニトのコル
→ 12:10 ニトヌプリ山頂 → 13:20 チセスキー場

雪が朝から降っているが、積雪はほとんどない。山々の頂は霧の中だが空も明るく風もそんなには強くなさそうなので、チセ～ニトの周遊コースに行くことにする。ホワイトアウトの中、先行者のトレースに従ってチセの山頂まで登る。標高差は 300m ほどなので 1 時間強で登れてしまう。山頂で記念撮影。

山頂からは真っ白な霧の中をコンパス頼りに東へと歩いてニトに向かう斜面の滑り出しへ出た。通常はこのチセの斜面はふかふかのパウダーなのだが、今日は少々雪が硬い。でも、高度を下げるにつれ視界もやや回復し、雪も軽くらいのパウダーとなってきた。

チセとニトとのコルである車道の上で一服。ここまで下がるとやや風も弱まる。昼食をとった後、再びシールでニトヌプリの山頂へ向かって登りはじめた。ニトヌプリへの登りは既にトレースがかき消されて自分たちでトレースをつけなくてはならなかったが、潜っても軽くらいまでなのでラッセルと言うほどでもない。1 時間で山頂に着いた。山頂からの滑降は、やはり視界がなくコンパス頼りで方向を決めて滑り出したが、数十 m も滑ると視界が回復してきた。

いつもは樹林帯へ入ると底なしのパウダーが味わえるのだが、あまりにも昨日天気良かったために、この樹林の中も今日はモナカ気味の雪。急傾斜の悪雪に苦勞させられる。それでも 13:30 にはチセのスキー場まで戻ってきた。

2/12 <霧ときどき雪> 9:45 ワイススキー場 雪上車出発 → 10:15 雪上車終点
→ 10:40 ワイスホルン山頂 → 10:50 ワイス 850m → 11:20 雪上車終点
→ 11:45 雪上車乗り場 → 12:15 雪上車終点 → 12:35 雪上車乗り場

天気予報では低気圧が来るはずだった。そこでワイススキー場滑降のみの予定としていた。しかし、いざ車でワイスホルンに向かってみると意外と青空も覗いて天気が良い。そこでワイスホルン登頂に予定を切り替えた。

スキー場着は 9:10。残念ながら始発の 9:00 の雪上車が出発した直後だった。ワイススキー場の雪上車は、土曜日曜は出発時間を定めず



に、戻って来次第出発のピストン輸送だが、平日は、45 分毎の時刻表に従った運行となる。

次の 9:45 の便を待ちつつスキーハウスで登山の準備をする。雪上車の料金は 5 回券/4,500 円。丁度 5 人で来たのでこれを使えば、一人一回当たり 900 円となる。45 分になったので、荷物を担いで雪上車に乗り込む。平日なのだが我々も含めて、ほぼ定員と思われる十数名の乗客がいた。雪上車は約 15 分で旧リフトの一番上まで上がってくれる。ここから山頂までは僅か 100m の登りだ。他のスキーヤー達が次々と斜面を下っていくのを横目に、シールをスキーに貼り付ける。約 30 分緩やかな尾根上を登るとワイスホルンの山頂に着いた。

山頂は霧の中。辛うじてわずかの霧の晴れ間の周囲の様子で、今山頂にいる事を確認することができた。霧の切れ目を待って滑降を開始する。傾斜は 20° 程度。スキーに最適の斜度だ。ここではテレマーカーが最も気持ち良さそ



うに大きなシュプールを描いていた。標高差 200m ほどを滑り切り、850m まで滑って一本目の滑降を終了した。

ここでシールを貼り、100m 上の尾根の上にある雪上車の終点にけて登り返す。終点に着いたのは 11:20 だった。急いで下れば 12:00 の便にもう一度乗れる。速攻で非圧雪のスロープを滑り降りた。

もう一回だけ雪上車の切符を買って上まで上がった。今度は尾根筋のコースを下った。12 時半にスキー場に戻って行動は終了した。



これは、イワオヌプリ